

國字水滸傳十三編

上

第十七回首

宋公明私放

晁天王

柳亭種彥譯

歌川國芳畫

馬油橋西



^ 13  
3812  
13





13  
13

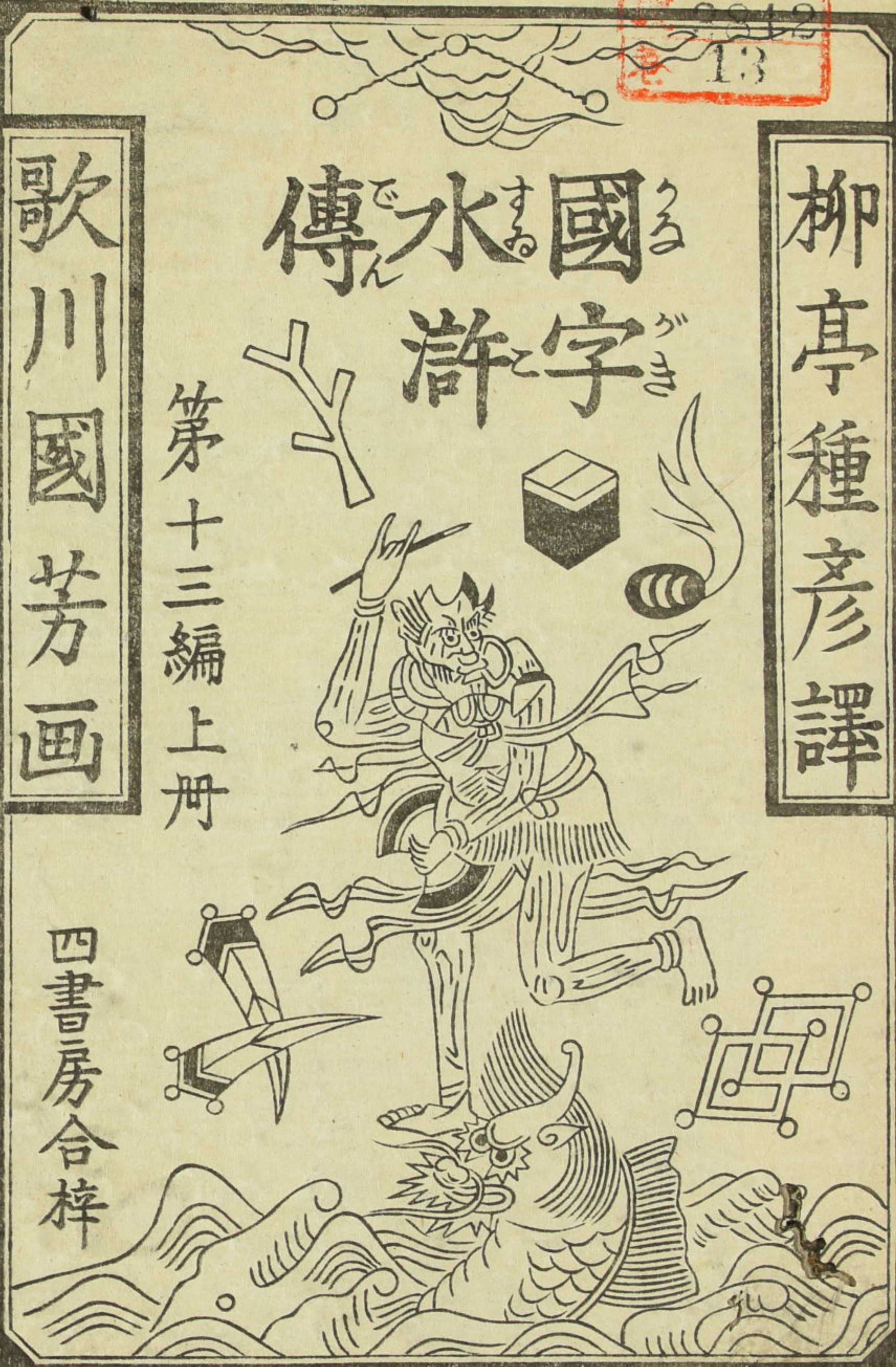
柳亭種彦譯

國字水滸傳

第十三編上冊

歌川國芳画

四書房合梓



一

天保乙未春發

先達の作りか事あるとあるべきか... 國字の... 柳亭種彦... 天保乙未春... 國字の... 柳亭種彦... 天保乙未春... 國字の... 柳亭種彦... 天保乙未春...

天保乙未春

柳亭種彦







立地太歳尻小

六千七百一十四



短命二郎尻山五

六千七百一十五

五



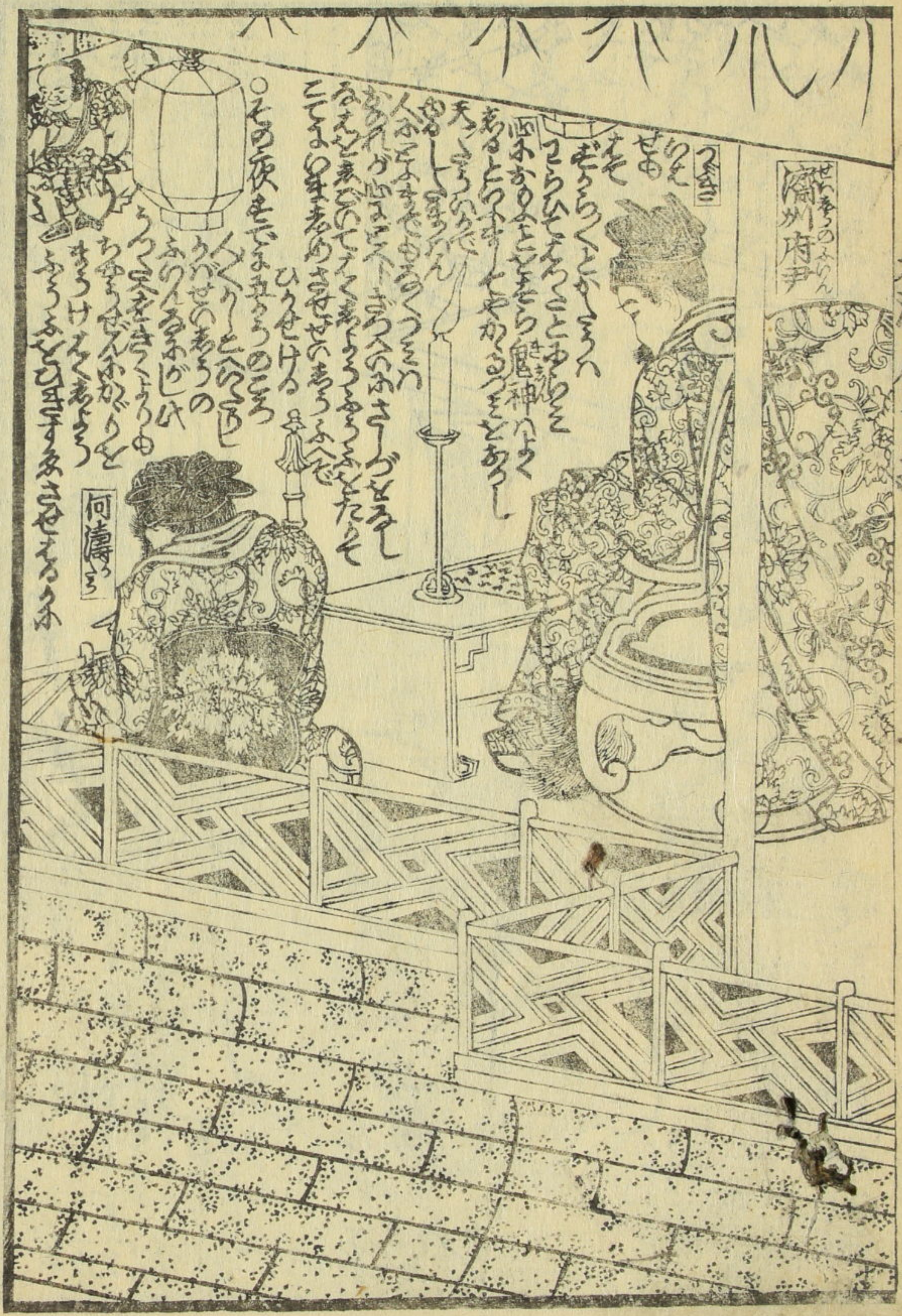






五十二

五



備前府尹

何處





















右のまき  
 こころをんあふりの大まきあどろをきかあう  
 とてんくのこまきあうし  
 まのけんあうまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき  
 東江  
 まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき  
 まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき

まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき  
 まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき  
 まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき



右のまき  
 こころをんあふりの大まきあどろをきかあう  
 とてんくのこまきあうし  
 まのけんあうまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき  
 東江  
 まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき

まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき  
 まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき  
 まのまき  
 おそくくはひまきあうし  
 むゆとてうのあま  
 たまき

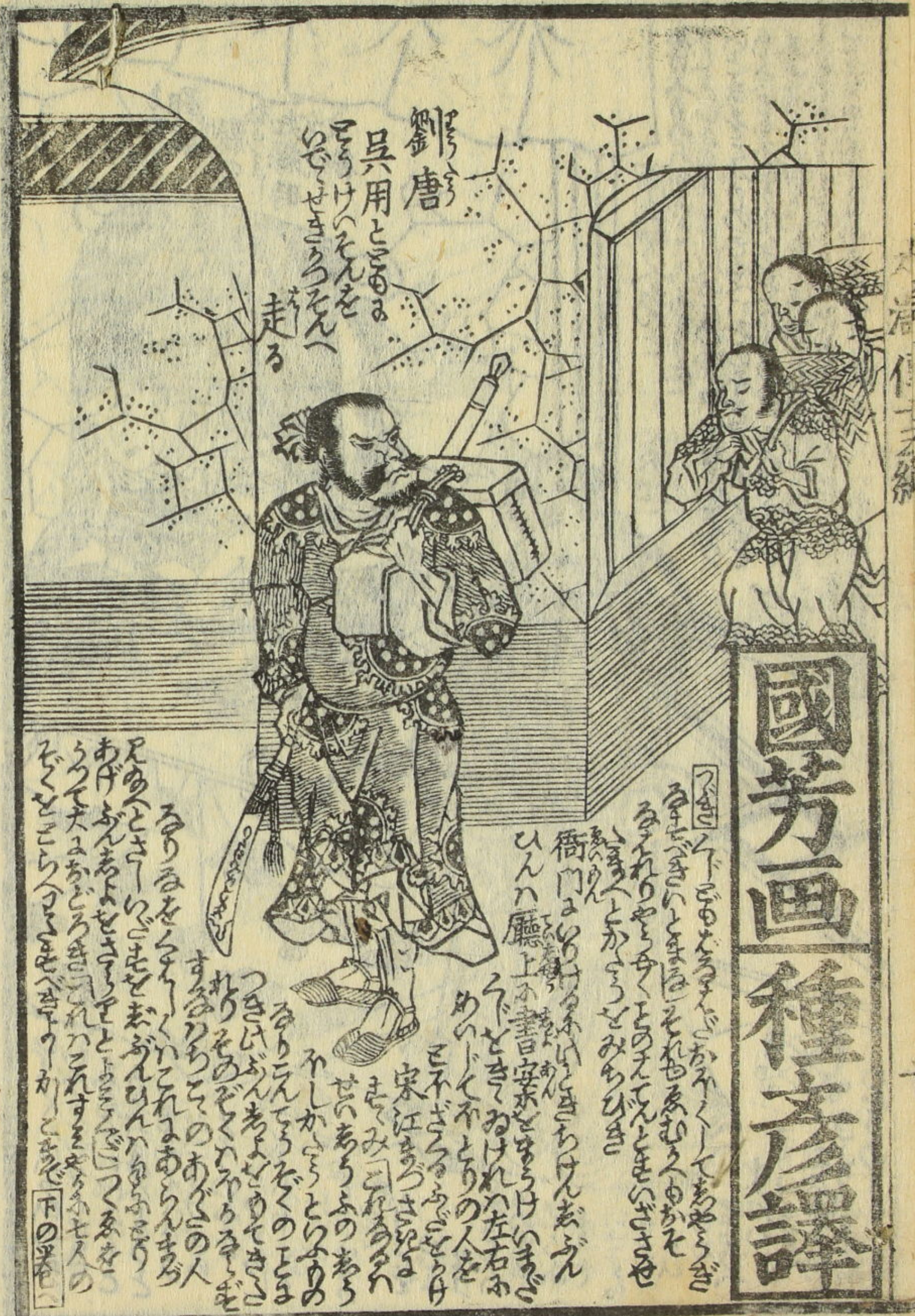






八海内一統

# 國芳画種文評



鄧唐  
 具用とてその  
 三つけのそんを  
 せきせきとそん  
 走る

ついで下りてそのまゝに  
 るまゝのまゝにそのまゝに  
 るまゝのまゝにそのまゝに  
 るまゝのまゝにそのまゝに

橋門よりけりてそのまゝに  
 ひんハ廳上の書案をもちけり  
 りとときおけり左の  
 めいどく不とりの人を  
 東江まづは  
 まてみこた  
 せのあうふのあう  
 やしかさうとりのあ  
 るりこんでうそのま  
 つきいふん考ふま  
 りりそのまゝにけり  
 すまらりそのまゝに  
 るりるをそのまゝに  
 足ぬとさしけりて  
 あげふんあうま  
 うつて大いかに  
 そとこりか

下のま



七

第十七回尾

義髯公智穩

種翅虎

第十八回首

林冲水寨大

併火



書房

合梓

國字水滸傳十三編

下











































# 柳亭種彦譚歌川國芳画

ついでに何とやらこれとこれをまきふ

打魚一世夢多兒注。

不種青苗不種麻。

酷吏賍官

都殺盡

忠臣報答

趙官家

かまう大おあやしめて  
むらうとまらとらちんれが  
一さうのせうせんおひりの男  
そはれをさりのべはらうを  
らうししくこひつとりのまを  
とまけてころこのくへ

五〇

五〇 ちきりるをうめけれくへをりふしきたりし

十のぐんそつこれをさんありあれくあれを

け小五くさりちゆんゆてくをのるくあひをよをる

まのふとまらるるまらるるまらるるまらるるまらるる

清書谷金川

阮小七





